



TITLE:

表紙・編集後記・目次

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙・編集後記・目次. 英文学評論 1961, 9

ISSUE DATE:

1961-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/134939>

RIGHT:

英文学評論

第 IX 集

- 「ジョナサン・ワイルド」の周辺 (1)……………飯 沼 馨
- 孤塔の詩人イエイツ (その四)……………大 浦 幸 男
- 後期エリオットの根本問題 (一)
- 「一族再会」・分析と解釈——……………寺 田 建 比 古
- ホプキンス巡礼……………山 村 武 雄

京都大学教養部英語教室

目次

「ジョナサン・ワイルド」の周辺 (1)	飯沼 馨……………(一)
孤塔の詩人イエイツ (その四)	大浦 幸雄……………(二四)
後期エリオットの根本問題 (一)	
——「一族再会」分析と解釈——	寺田 建比古……………(二六)
ホプキンス巡礼……………	山村 武雄……………(二五)

編集後記

*本誌が創刊された当時は、教室のスタッフは16名であった。創刊号にはそのほとんど全員が執筆している。スタッフの数はその後、次第にふえ、現在、21名をかぞえるにいたつてゐる。創刊号の場合のように、その全員が執筆するとすれば、当然、頁を大幅にふやさなければならぬ。

*ということで、本誌は年2回発刊ということにきまつたことは前号に報じたとおりである。この決定の時期がおそかつたために、本号を出すについては時間的に無理があつた。さいわい寄稿の諸氏の協力を得て、形をととのえることができた。これらの諸氏に感謝したい。

*ケイムブリッジを出たその足で、当教養部に赴任、それから3年余、われわれを大いに啓発してくださつたロジャー・マシユーズ氏は今度、任期満ちて帰英されることとなつた。氏と話すたびごとに筆者などは、ここに人物ありとの感を深くしたものだつた。氏には再び訪日の意図ありと書く。その意図の一日も早く実現されんことを願つてやまない。

*われわれはわれわれの間からもう一人、かけがえのない人を失なつた。去る一月末、定年退職をされた文学部の工藤好美教授である。教授があたたかい心で指導してくださつたこの3年間はあまりにも短かつた。教授の御健勝を祈る。

(編集委員)

英文学評論 第九集

非売品

昭和三十六年三月二十五日 印刷
昭和三十六年三月三十日 発行

編集者

京都大学教養部英語教室

代表者 中野正順

印刷所

内外印刷株式会社

京都市下京区西洞院七条下ル

発行所

京都大学教養部英語教室

京都市左京区吉田二本松町

REVIEW OF ENGLISH LITERATURE

VOL. IX. March 1961

CONTENTS

On *Jonathan Wild* (1)*Kaoru Iinuma*

W. B. Yeats, Poet of the Lonely Tower (4)*Yukio Oura*

T. S. Eliot : The Fundamental Problems of
his Later Works.....*Takehiko Terada*

Following Up the Footsteps of
Gerard Manley Hopkins*Takeo Yamamura*

ENGLISH DEPARTMENT
COLLEGE OF LIBERAL ARTS
KYOTO UNIVERSITY